

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【1/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
1	野辺地断層	陸域	約 10km	約 25km	古期低地堆積層が確実度Ⅱの断層及びL <sub>0</sub> リニアメントを挟んで 5° ~ 8° 東傾斜して分布し、断層に起因する変位・変形なし。浸食地形。	第Ⅰ図、添付1
2	七戸西方断層	陸域	約 22km	約 32km	低位段丘堆積層(L <sub>1</sub> 面堆積物)が撓曲構造を覆って、ほぼ水平かつ連続的に分布し、同層に変位・変形なし。	第Ⅰ図、添付2
3	後川-土場川断層	陸域	約 14km (藤田ほか (1980))	約 11km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 文献が指摘する位置を境に高位面(H <sub>4</sub> 面)にほとんど標高差なし。 支流河川に系統的な屈曲なし。 閉塞丘あるいは截頭谷等の横ずれに伴う断層変位地形なし。	第Ⅰ図、添付3
4	一切山東方断層 (老部川(北)右岸の断層を含む)	陸域	約 4.5km	約 24km	中位段丘堆積層(M <sub>1</sub> 面堆積物)に変位・変形なし。	第Ⅰ図、添付4
5	御宿山北方断層 (御宿山東方の断層を含む)	陸域	約 7.5km	約 11km	断層は高角度断層であり、顕著な破碎部なし。断層面密着。 水系図及び接峰面図により、山地高度の不連続や水系の系統的な屈曲等の変動地形なし。浸食地形。	第Ⅰ図、添付5
6	淋代東方のリニアメント・変動地形	陸域	約 2.1km 約 3.5km (2条)	約 12km	L <sub>0</sub> リニアメントを挟んで高位段丘堆積層(H <sub>3</sub> 面堆積物)上面は連続的に分布。 確実度Ⅲのリニアメント及びL <sub>0</sub> リニアメントを挟んで砂子又層の地質構造に不連続なし。風成砂による地形的な高まり。	第Ⅰ図、添付6

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【2/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
7	二又付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 1.5km 約 2km (2条)	約 5km	【二又西方のリニアメント】 二又西方リニアメント(L <sub>0</sub> リニアメント)及び确实度Ⅲのリニアメントを挟んで、高位段丘堆積層(H <sub>4</sub> 面堆積物)上面に高度不連続なし。風成砂による砂丘状の高まり。 【二又北方のリニアメント】 二又北方リニアメント(L <sub>0</sub> リニアメント)の両側では、砂子又層下部層の地質構造に不連続なし。浸食地形。 确实度Ⅲのリニアメントの両側で、砂子又層下部層の地質構造に不連続なし、中位段丘堆積層(M <sub>2</sub> 面堆積物)下面に高度差なし。	第 I 図、添付7
8	戸鎖付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 3km	約 4km	L <sub>0</sub> リニアメントを挟んで、高位段丘堆積層(H <sub>6</sub> 面堆積物)下面が連続して分布。風成砂からなる地形的な高まり及び段丘崖。 确实度Ⅲのリニアメントの両側で、高位段丘堆積層(H <sub>4</sub> 面堆積物)下面に高度不連続なし。	第 I 図、添付8
9	老部川(南)上流付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 2.8km ([新編]日本の活断層)	約 4km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 确实度Ⅲのリニアメントを挟んで、泊層の安山岩溶岩に不連続なし。	第 I 図、添付9

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【3/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
10	一里小屋付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 2.5km 約 4.5km (2条)	約 30km	【一里小屋(西)リニアメント】 砂子又層の砂岩及び泥岩が西傾斜の同斜構造をなして分布しており、両者の岩相境界はL <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んで連続する。風成砂による地形の高まり。 【一里小屋(東)リニアメント】 砂子又層の砂岩及び泥岩が西傾斜の同斜構造をなして分布しており、砂子又層はL <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んで一様な傾斜を示す。浸食地形。	第 I 図、添付 10
11	小田野沢西方のリニアメント・変動地形	陸域	約 1.9km	約 30km	L <sub>0</sub> リニアメント東側の緩斜面には猿ヶ森層が分布し、西側の急峻な山地には泊層が分布している。両者の地層境界は、ほぼ水平ないし西に緩く傾斜している。浸食地形。	第 I 図、添付 11
12	向沢付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 1.3km	約 10km	砂子又層の砂岩が西緩傾斜の同斜構造をなして分布しており、L <sub>0</sub> リニアメント位置を挟んで高位段丘堆積層(H <sub>0</sub> 面堆積物)の上面が連続する。風成砂による地形的な高まり。	第 I 図、添付 12
13	豊栄平付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 0.6km	約 7km	砂子又層の砂岩及びシルト岩が西傾斜の同斜構造をなして分布しており、砂子又層はL <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んで一様な傾斜を示す。浸食地形。	第 I 図、添付 13

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【4/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
14	豊前付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 6.0km	約 11km	L <sub>0</sub> リニアメントが判読される谷を横断して、砂子又層の露頭が複数認められ、露頭にみられるシルト岩と中粒砂岩の岩相境界は、L <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んでほぼ連続的に分布しており、不連続は認められない。風成砂による地形的な高まりあるいは段丘崖。	第 I 図、添付 14
15	内沼付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 7.3km	約 11km	砂子又層中の礫岩及び粗粒砂岩は、L <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んで連続的に分布し、これを覆う中位段丘堆積層(M <sub>1</sub> 面堆積物)の下面に不連続は認められない。風成砂による地形的な高まり。	第 I 図、添付 15
16	乙部付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 4.0km	約 20km	高位段丘堆積層(H <sub>4</sub> 面堆積物)下面は、L <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んでほぼ水平に分布し、不連続は認められない。風成砂による地形的な高まり。	第 I 図、添付 16
17	清水目川付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 4.5km	約 22km	L <sub>0</sub> リニアメントを挟んで、高位段丘堆積層(H <sub>4</sub> 面堆積物)の下面に標高差は認められない。浸食地形。	第 I 図、添付 17
18	有戸南方のリニアメント・変動地形	陸域	約 5.1km	約 16km	L <sub>0</sub> リニアメントの位置を挟んで、十和田レッド火山灰(約8万年前)を含む腐植質シルト層及び中位段丘堆積層(M <sub>1</sub> 面堆積物)最下部の細粒砂層が連続的に分布。風成砂による地形的な高まり。	第 I 図、添付 18

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【5/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
19	口広付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 3km 約 3km (2条)	約 26km	【口広西方リニアメント】 中位段丘堆積層(M <sub>2</sub> 面堆積物)が口広西方リニアメントを横断して連続的に分布し、その上面に変位は認められない。風成砂による地形的な高まり。 【口広南方リニアメント】 古期低地堆積層に属すると考えられる古期扇状地堆積物が口広南方リニアメントを横断して連続的に分布し、礫と凝灰質砂の層相境界及びこれを覆う火山灰層との地層境界に変位は認められない。風成砂による地形的な高まり。	第 I 図、添付 19
20	朝比奈平付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 11km	約 30km	砂子又層内の不整合面を境に、それより下位の地層に急傾斜構造が認められるが、それより上位の地層には、撓曲による変形は認められない。浸食地形。	第 I 図、添付 20
21	月山東方の断層	陸域	約 4.2km ([新編]日本の活断層)	約 18km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 断層推定位置を挟んで分布する中位面(M <sub>1</sub> 面)に高度差は認められない。	第 I 図、添付 21

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【6/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
22	金津山付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 1.0~4.2km ([新編]日本の活断層:6条)	約 15km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 確実度Ⅲのリニアメントが示されている位置では、泊層の各岩相境界に不連続は認められない。 金津山周辺の水系図及び接峰面図によると、リニアメントを挟んで、山地高度の不連続や水系の系統的な屈曲等の変動地形は認められない。	第Ⅰ図、添付 22
23	千歳平付近のリニアメント・変動地形	陸域	約 1.8km ([新編]日本の活断層)	約 7km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 リニアメントの位置を横断して、鷹架層の連続露頭が認められる。露頭における鷹架層は、シルト岩を主体とし、細粒砂岩との岩相境界や粗粒砂岩の薄層(挟み層)に不連続は認められず、断層は認められない。	第Ⅰ図、添付 23
24	十二里南方のリニアメント・変動地形	陸域	約 0.8km ([新編]日本の活断層)	約 14km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 確実度Ⅲのリニアメント付近は、地すべり地形を呈しており、新第三系鮮新統~第四系下部更新統の砂子又層からなる地すべり土塊が小規模なブロックに分割されている。個々の地すべり土塊の頭部は尾根頂部にまで達し、これらの滑落崖が見掛け上、直線状に配列しており、この位置には断層は認められない。	第Ⅰ図、添付 24
25	朝比奈平付近の断層	陸域	—	約 26km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 断層の南方延長部では、泊層が広く分布しているが、泊層の岩相分布に顕著な不連続は認められないことから、本断層は泊層内の地層を変位させる連続性の乏しい小規模な断層である。	第Ⅱ図、添付 25

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【7/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
26	桧木川付近の断層	陸域	—	約 16km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 新第三系中新統の泊層と蒲野沢層との地層境界や泊層の岩相境界に不連続は認められないことから、これらの断層は泊層内の地層を変位させる連続性の乏しい小規模な断層である。	第Ⅱ図、添付 26
27	小老部川上流付近の断層	陸域	—	約 27km	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 一切山東方断層及び老部川(北)右岸の断層と同様の変位形態を示すことから、中位段丘堆積層(M <sub>1</sub> 面堆積物)を変位させていないと推定。	第Ⅱ図、添付 27
28	大陸棚外縁の断層	海域	約 84km ([新編]日本の活断層)	約 44km	Cp層上面に変位・変形なし。	第Ⅲ図、添付 28
29	小川原海底谷付近の断層	海域	—	約 20km※3	Cp層とD層との境界は明瞭に連続し、断層を示唆する変位及び変形は認められない。	第Ⅲ図、添付 29
30	尻屋崎南東沖、尾駈沖の断層及び伏在断層	海域	約 3~4km (地質調査所(1993):尻屋崎南東沖:2条、尾駈沖:2条)	約 38km※3	Cp層上面に断層を示唆する変位及び変形なし。	第Ⅲ図、添付 30

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

※3 敷地から最も近い断層を対象とした距離を記載

表1 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地周辺・近傍の断層等) 【8/8】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	分布域	長さ※1	敷地からの距離※2	活動性を否定する理由	備考
31	尻屋崎沖以北の断層	海域	数 km ([新編]日本の活断層:3条)	約 57km※3	Cp層の上面に断層を示唆する変位及び変形は認められず、Bp層とCp層との境界が探査深度以深になるところについては、少なくとも Bp 層は連続性のある層理を示しており、地層の明瞭な乱れが認められない。	第Ⅲ図、添付 31
32	尻屋海脚西縁部(津軽海峡)の断層及び撓曲	海域	約 10km 10 数 km ([新編]日本の活断層:2条)	約 68km※3	B層中には断層又は撓曲を示唆する変位及び変形なし。	第Ⅲ図、添付 32

※1 陸域は空中写真判読結果に基づく長さ。海域は海上音波探査結果に基づく長さ(それ以外の場合は出典を示す)

※2 再処理事業所敷地から断層の中心までの距離

※3 敷地から最も近い断層を対象とした距離を記載



表2 耐震設計上考慮していない断層に対する評価(敷地内の断層) 【1/1】

再処理事業所(六ヶ所)

No.	断層・リニアメント名	活動性を否定する理由	備考
1	f-1断層	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 高位段丘堆積層(H <sub>5</sub> 面堆積物)に変位・変形なし。	第Ⅱ図、添付 33
2	f-2断層	空中写真判読によるリニアメント・変動地形なし。 砂子又層下部層に変位・変形なし。	第Ⅱ図、添付 34